

## Special Essay

### 憧れのヒーロー

解剖学講座

山木 宏一

誰にでも憧れの人、あるいは自分だけのヒーローはいるものである。私の少年時代のヒーローは月光仮面、まぼろし探偵であり、長嶋茂雄であった。三角ベースでソフトボールを始めたのもこの頃で、私は長嶋茂雄に憧れ、軟式野球を始めるとみんな同じように3塁を守りたがり、ユニホームの背番号も3番をつけているという状態であった。思えば久留米大学入試の面接で尊敬する人は？と聞かれ、私は迷わず長嶋茂雄と答えたことを覚えている。野球が大好きで、朝はスポーツ新聞、学校が終わればソフトボール、夜はテレビでプロ野球という小学生時代の私にとって長嶋茂雄はヒーローであった。笑い話に「算数が得意になったのは、新聞で長嶋の打率の計算を毎日何回もしていたおかげである。」といったこともある。そして、中学、高校と野球部で過ごした時代はあの巨人軍のV9時代でもあった。浪人時代の昭和49年10月14日、忘れもしない長嶋茂雄の引退の日、予備校の寮の食堂で、あの名ぜりふ「・・・私は今日引退をいたしますが、我が巨人軍は永遠に不滅です・・・」を一人でテレビを見ながら涙したことを覚えている。今でも長嶋茂雄の現役、監督時代の姿が甦ってくる。

私自身も大学に入学してから今日まで野球を続け、現役時代は1番バッターの内野手として、卒業してからはコーチ、監督、野球部長として31年間、軟式野球を始めから41年間も続けられたのも憧れの長嶋茂雄の存在があったからであろう。

もう一人の憧れの人足立文太郎先生である。大学を卒業し、解剖学第一講座に入り、初めて学会発表したのが、実習中に観察された腹腔動脈の破格の報告であった。肉眼解剖、特に腹腔動脈などの血管の破格には必ず、「足立の分類」というものがあり、それを細かく調べることから準備が始まる。この「足立の分類」とは、京都大学の足立文太郎という先生が書かれた「日本人の動脈系」、「日本人の静脈系」の中にある様々な血管を観察して、分類されたものである。これらの分類は日本だけでなく、世界中の解剖学者や臨床家が引用されるほどの素晴らしいものである。

今でも覚えているが、当時の教授であり私の恩師に講師として推薦していただいたときに、自分の目指す人は足立文太郎先生であり、生涯をかけて足立先生を目指して追いかけて行きたいと言ったことである。51歳になった自分が子供の時に憧れのヒーローである長嶋茂雄のように現在のヒーローとして足立文太郎先生を目指し、超えられるように夢を見続けていきたい。